

平成27年度第1回狭山市まち・ひと・しごと創生有識者会議 会議録

開催日時 平成27年11月18日(水)

午前10時30分～正午

開催場所 狭山市役所7階 職員研修室

出席者 9名

欠席者 0名

市側出席者 市長、総合政策部長、総合政策部次長兼基地対策課長、政策企画課長

議題等

1. 狭山市人口ビジョン(骨子案)について
2. 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略(骨子案)について

質疑

(1) 狭山市人口ビジョン(骨子案)について

委員 今回のテーマは短時間で議論するには複雑かつ壮大すぎるのではないかと。人口が減少すれば、土地に対する有効需要も減少し、地価や固定資産税収入の減少に結びつき、市の経営に大きな影響を与える。また、一方で国全体として借金が1,000兆円を超える現状を踏まえると、人口減少対策は一自治体だけではどうすることもできないのではないかと。

委員 合計特殊出生率を平成62年に2.07にするという目標掲げる自治体が多いが、本当に達成できるのか強い疑問がある。目標達成に向けて、どのような対策を講じるかについて知恵を絞ることが最も重要ではないか。そのためにはあまり長期を見据えるのではなく、直近10～15年について集中的に検討すべきではないか。人口減少自体を食い止めることは難しいとしても、人口減少の幅を小さくすることは可能であり、今回の人口ビジョン、総合戦略の検討はよい契機ではないかと考える。一方で、全ての自治体で人口ビジョンと総合戦略を策定するので、人口をめぐって都市間競争が激化する。いかに独自色を出していくかが重要である。

委員 介護を受ける人が減少している自治体もあると聞いている。高齢者が急増する中で狭山市としてどのような対策を講じているのか。

市 側 委員からご指摘の通り、国が掲げている目標値は必ずしも狭山市に当てはまらないものも含まれているが、目標に近づけるためにどのような施策を講じるかが重要であると考えている。また、高齢者の健康づくりという点についても非常に重要なテーマであると考えている。

委 員 人口問題は先述の通り、国家レベルの課題である。例えばフランスでは各種施策により合計特殊出生率の改善に努めるとともに、移民を積極的に受け入れることで、人口減少対策に取り組んでいる。日本としても積極的な施策を展開するべきではないかと思う。

委 員 都市間競争が激化する中、狭山市もようやく狭山市駅西口の区画整理事業を実施したが、近隣市においても大規模な開発や改修が行われている駅が見受けられる。こうした状況において、人口減少に歯止めをかけるためには、狭山の独自性、例えば子育て支援の充実や緑の多い環境を内外に向けてPRすることが重要ではないか。

(2) 狭山市まち・ひと・しごと創生総合戦略（骨子案）について

委 員 新しい人の流れをつくるという内容は、他の項目よりもレベル感が違うように感じる。入間川地域では遊歩道の整備が進んでおり、ウォーキングやランニングも盛んである。こうした側面をPRすることも定住促進に結びつくのではないか。

市 側 国が想定している「ひとの流れ」とは東京への一極集中を是正することにあるが、委員からご指摘されたことも踏まえ、定住促進を図る上で、魅力づくりの一環として検討したい。

委 員 ひとの流れを考える上で「地域密着」がキーワードになるのではないか。地域同士で高齢者が交流する企画を仕掛けることがよいのではないか。

委 員 総合戦略において「元気な健康高齢社会をつくる」という柱を立てるか否かは、総合計画にも影響を与えるのではないか。

委 員 高齢社会を所与とする場合、アクティブシニア層を増やすことは重要であり、5つ目の柱としてふさわしいのではないか。

委員 狭山市の魅力は何かを再度掘り起こすことが大事ではないか。例えば狭山市駅西口は整備されてきれいになったが、特徴がない。お茶の香りが漂うなどの工夫もよいのではないか。魅力向上につながる重点施策が必要ではないか。

委員 ゆるキャラや七夕祭りについての周知、狭山茶の認知度は市内の学校で確実に高まっている。入間川中学校では伝統的に体力づくりのためにロードレースを行っている。こうした取組は狭山市独自の魅力であると思う。更に発信を強め、子どもたちを中心に狭山市に対する愛着を高めることが人口減少を食い止めるために重要ではないか。

委員 年度末までに人口ビジョン、総合戦略を作成するということが、新型交付金の対象となる事業は別途国に申請をするということか。

市側 現在、国で検討中であり、動向を注視したい。

委員 総合戦略に掲げる事業のいくつかが実現されるということか。

市側 5年間の中ですぐに成果が出るものとそうでないものもある。予算配分を考慮しつつも、事業の必要性に応じて検討していく必要があると考えている。また、新型交付金がなかったとしても事業が継続できるように考えなければならないと考えている。

委員 狭山市の魅力を発信していくことは大きな課題である。短期的にインパクトのある施策を講じるか、長期的に継続できる施策を講じるのか、優先順位をつけるべきではないか。